

愛知県内におけるスズメ(*passer montanus*)の生息状況の変化 — 50年を迎える愛知県鳥類生息調査結果から —

スズメ (*passer montanus*) は、日本では身近な鳥類として広く知られているが、近年その個体数が減少していると指摘されている。

愛知県では、1967年度から日本野鳥の会愛知県支部の協力のもと「鳥類生息調査」が行われており、来年度で50年を迎える。この調査では、県内22地点で毎月1回ルートセンサスが行われている(図1の○印が調査地点)。

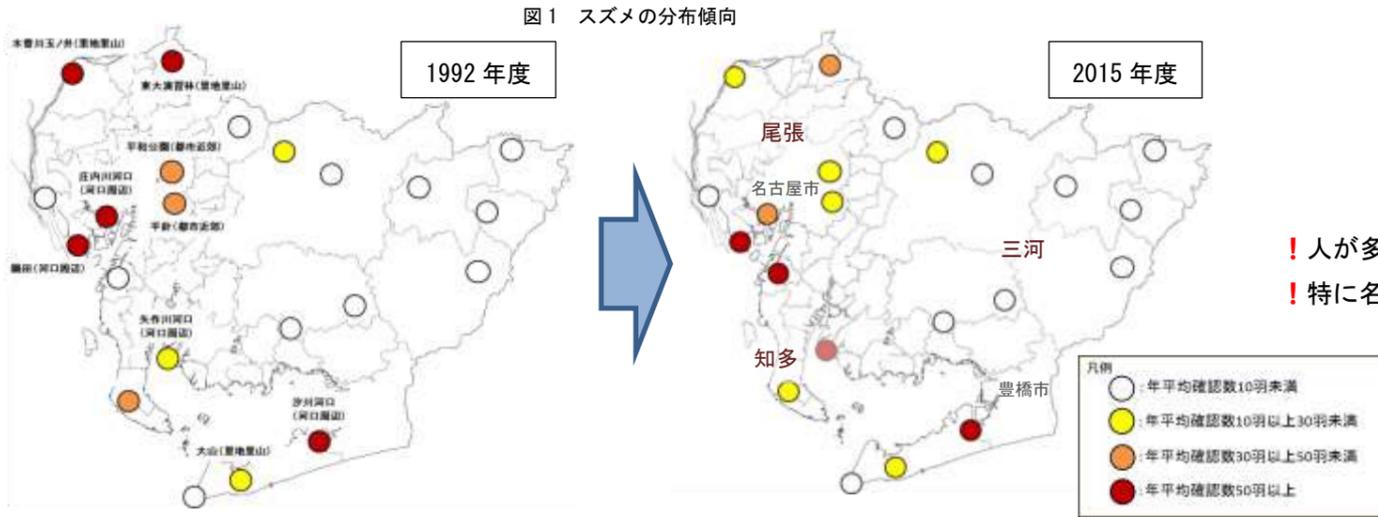
そこで、この調査データをもとに、愛知県内のスズメの生息分布の変化や調査ルート周辺の住宅等の建物の有無と繁殖期のスズメの確認数の関係について調べた。

スズメの生態

- ほぼ日本全域に生息
- 繁殖期(4~7月)は住宅地周辺で子育て
- 越冬期(11~2月)は住宅地周辺の他、アシ原や農耕地に群れで生息

- ? スズメは本当に減っているのか?
- ? 愛知県内ではどの地域に多いのか?

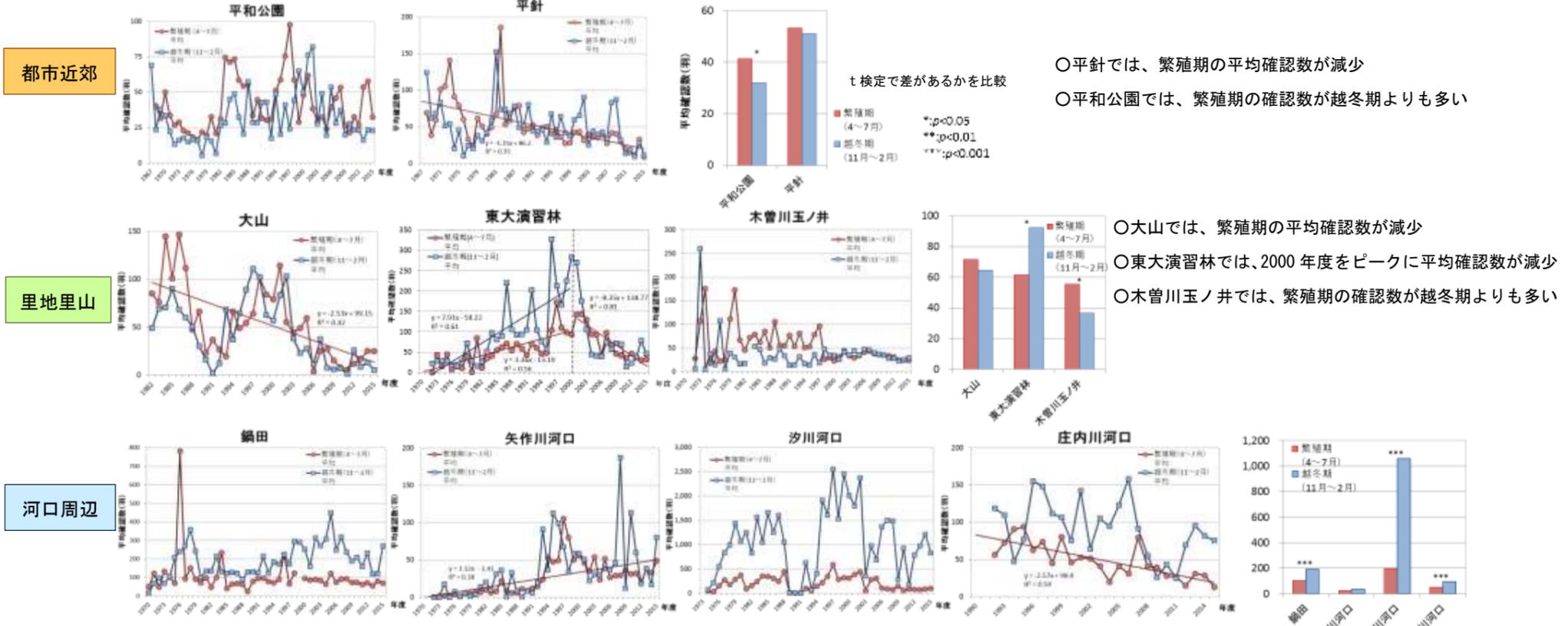
スズメの分布傾向の変化



! 人が多く暮らす尾張、知多、三河沿岸部に生息
! 特に名古屋・尾張ではスズメの確認数が減少

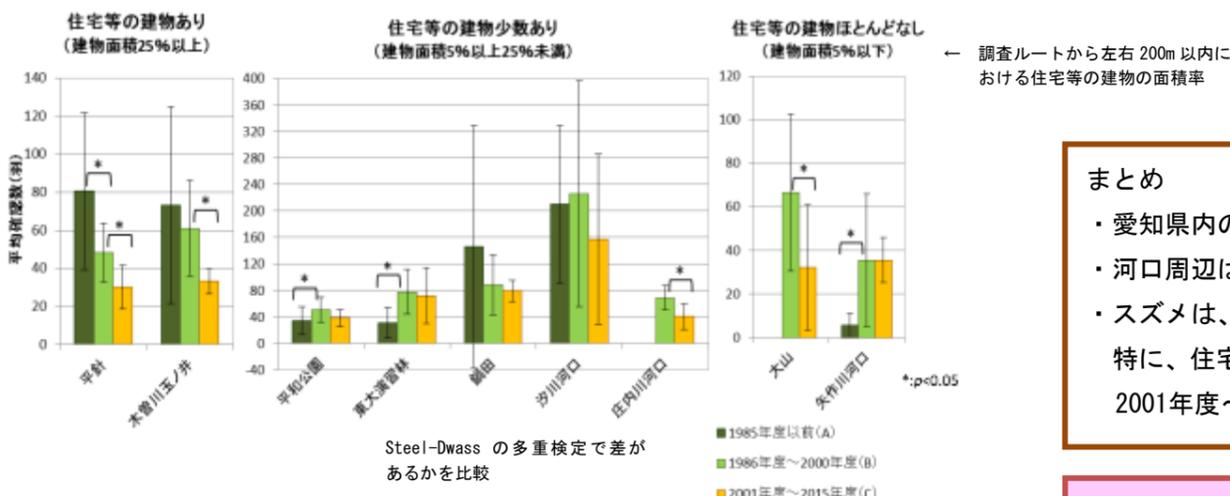
図2 繁殖期と越冬期におけるスズメの経年変化

図3 繁殖期と越冬期におけるスズメの平均確認数



繁殖期における住宅等の建物の有無と平均確認数の増減傾向

図4 繁殖期における住宅等の建物の有無と平均確認数の増減傾向



○矢作川河口では、繁殖期の平均確認数が増加
○庄内川河口では、繁殖期の平均確認数が減少
○鍋田、汐川河口、庄内川河口では、越冬期の確認数が繁殖期の確認数よりも多い。
! 河口周辺が越冬期に利用されている

まとめ

- ・愛知県内のスズメは、人が多く暮らす地域に生息している。
- ・河口周辺は越冬期のスズメが利用している。
- ・スズメは、多くの調査地点で減少傾向にある。特に、住宅等の建物がある地点(平針、木曾川玉ノ井)については、2001年度~2015年度の繁殖期の平均確認数が有意に減少している。

鳥類生息調査の結果は、愛知県環境部のwebページで公表しています!

「愛知県鳥類生息調査」で検索

(<http://www.pref.aichi.jp/kankyo/sizen-ka/shizen/yasei/chouturi/index.html>)

○周囲に住宅等の建物がある調査地点では、気密性の高い新築住宅が建てられるようになった2001年度~2015年度の平均確認数が減少

! 営巣環境の悪化がスズメの減少を招いている可能性がある